

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	加賀田組本社ビル 中央区 万代4丁目2458-1,2459-7 近隣商業地域・防火地域 事務所, 2012年11月 予定 2,595.38 m ² 922.25 m ² 2,795.48 m ² 地上4階 S造 実施設計段階評価 2012年5月23日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	S	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{66}{22} = 3.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.7		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.5
			更新性	3.6
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.3		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.6
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	4.0		雨水排水負荷低減	4.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.3		建物の熱負荷抑制	3.0
			自然エネルギー利用	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	4.0		生物環境の保全・創出	4.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.0		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

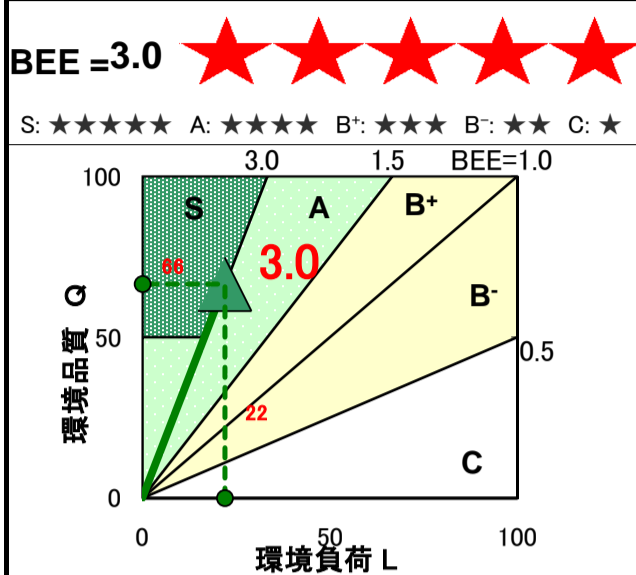
1 長寿命化の取組み	維持管理に配慮した材料の選定をするとともに、清掃等にも配慮した計画としている。
2 地震への取組み	災害時の機能確保のため、信頼性向上の措置を行っている。
3 大雨への取組み	建物の1階レベルを周辺よりあげることによる浸水防止を行うとともに透水性舗装や雨水タンクの採用など敷地外への流出防止策を行っている。
4 自然エネルギー利用への取組み	自然光をアトリウム・執務室に取り入れ有効利用する計画としている。
5 資源循環の取組み	節水・省水機器の採用とともにリサイクル材を積極的に活用する計画としている。
6 水と緑を活かす取組み	屋上・敷地の緑化やピロティ・中高木での日陰形成など暑熱環境の緩和を図っている。
7 新潟のまちなみへの取組み	『田園都市新潟』に相應しい緑地を意識したガーデンプラザと遊歩道を設け、近隣の皆様に開放します。

CASBEE®新潟

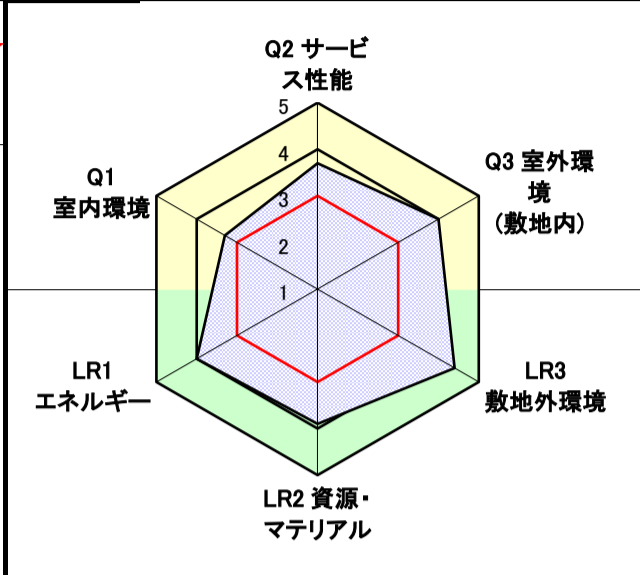
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

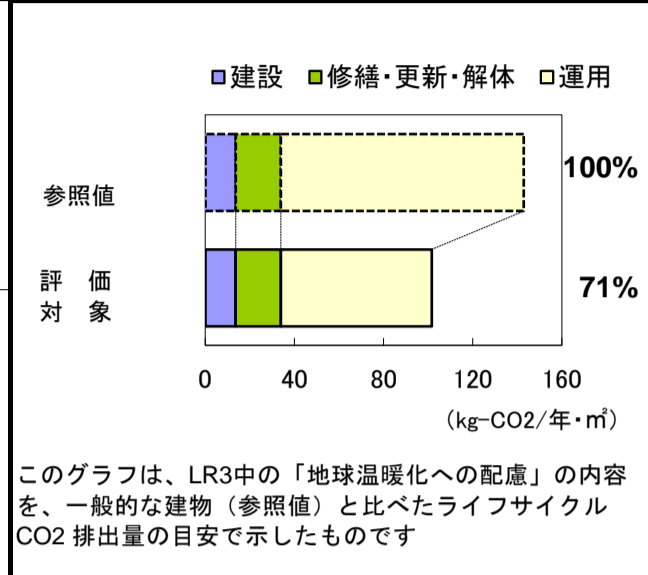
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



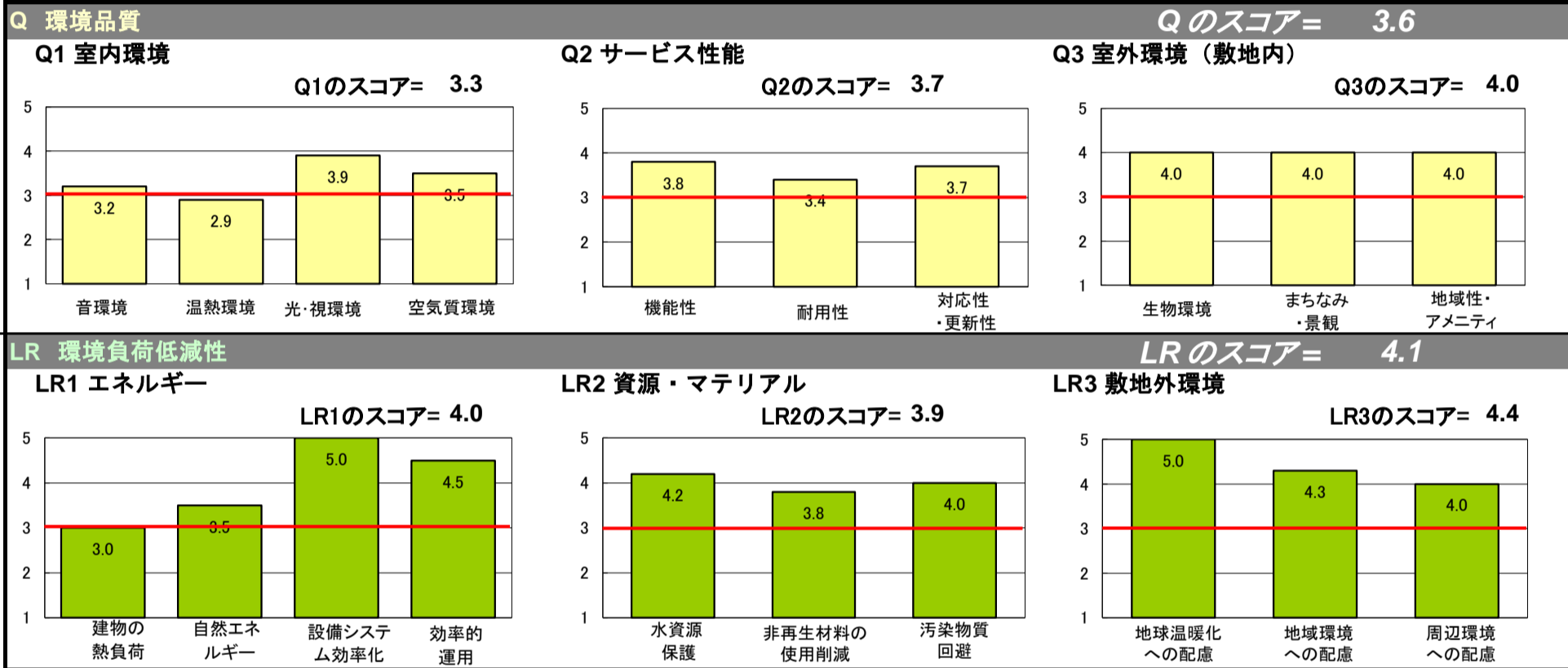
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 新社屋建設にあたり、『建築の加賀田』として、長い伝統の中で培ってきた匠の技術を活かし、最新のテクノロジーを取り入れることで『環境負荷を小さく、環境品質を大きく』を念頭に先進性に富んだ環境に優しい建物を実現しました。	その他
Q1 室内環境 全面的にLow-Eガラスを採用し断熱性能を向上させるとともに、室内の湿度を加湿・除湿制御を行うことにより快適な室内環境としている。	Q2 サービス性能 ゆとりのある階高、天井高さとしており開放感のある空間作りとしている。また、耐久性能に優れた材料を採用するとともに維持管理に必要なスペースと機能を確保している。
LR1 エネルギー LEDを全面的に採用し照明エネルギーを従来より大幅に削減している。また、主な使用エネルギーのモニタリングを行うことで長期的な運用管理を可能とし省エネルギーに配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水・省水機器の採用に加え雨水を洗浄水等に利用し水資源の保護を図っている。また、リサイクル資材の採用など資源の有効利用・再資源化に向けた取り組みを行っている。
	LR3 敷地外環境 敷地外への影響を最小限にするため、機械スペースの隔離確保や目隠しの設置、光害対策等を計画している。また、透水性舗装や雨水タンクの設置など雨水排水負荷の低減を図っている。
	Q3 室外環境(敷地内) 屋上・敷地内を緑化することで環境性能の向上を図っている。また、ガーデンプラザを遊歩道とし地域に開放することで地域アメニティ向上に寄与する計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される